

1	<b>学習指導 A</b>
テーマ	<b>我が国と郷土の歴史や伝統・文化への理解を深める学習指導</b>
基調	<p>日本の伝統や文化を理解し尊重する教育は、従来、日常生活の具体的な時と場に即して行われてきた。しかし、時代の変化とともに、家庭や地域社会において子供たちが伝統や文化について理解したり経験したりする機会が減っていることや、それらを継承する担い手不足等の課題がある。教育基本法には、「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と記され、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と示されている。</p> <p>グローバル化が進む今日の国内外の社会状況の中で求められる、国際社会で活躍できる日本人の育成とは、子供たちに「日本人である」という自覚と誇りをもたせる教育を充実させ、我が国の新しい時代を創造する力を育むことであると考え。したがって、我が国と郷土の歴史や伝統・文化への理解を深め、その良さを継承・発展させることができるよう、学習指導を通して世界に誇れる「美しい日本人の心」を育成することが、今後ますます重要である。</p> <p>前回大会（山口大会）では、学校と地域とが連携し、各地域の特色を生かしながら、伝統や文化に深く携わってきた先人の思いや事象等を、後世に継承していくことの大切さについて確認できた。一方で、学校の限られた授業時数の中で、伝統文化について児童生徒に深く学ばせることの難しさが課題として挙げられた。</p> <p>本分科会では、山口大会に引き続き、グローバル人材の基盤となる、我が国と郷土の歴史や伝統・文化を深く理解し受け継いでいき、日本人としてのアイデンティティを育むための教材開発や指導の在り方について、研究を深めていく。そして、それらを通して、他国を理解し、尊重する態度を養い、国際社会で活躍できる日本人を育てる教育の在り方について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 我が国の歴史や伝統・文化の理解を深めるための教材開発と指導の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 言語文化、文化遺産、生活様式、芸術文化、食文化、武道等、各教科における教材開発と指導</li> <li>② 各学年、各教科・領域をつなぐ学習指導計画と指導</li> <li>③ 我が国の歴史や伝統・文化の理解を深める取組を生かした国際理解教育</li> </ol> </li> <li>2 郷土の歴史や伝統・文化の理解を深めるための教材開発と指導の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 総合的な学習の時間や特別活動等における身近な地域教材の開発と指導</li> <li>② 地場産業や伝統・文化に興味関心をもち、継承しようとする気持ちを育てる指導と手立て</li> <li>③ 地域人材やコーディネーター等サポート人材の確保と活用</li> <li>④ 地域人材や教育関係機関等を活用し、地元企業等と連携・協力した体制の構築</li> <li>⑤ 異校種で連携した取組</li> </ol> </li> </ol>

「ふるさと岐阜」を知り、愛する地域社会人の育成

～岐阜のふるさと教育実践例～

1. 総合的な学習の時間や特別活動等における身近な地域教材の開発と指導（研究の視点2-①）

- ・カリキュラム編成の実際
- ・地域の文化や産業を知り、学ぶ活動（参加や体験）
- ・総合的な学習の時間の活用
- ・「ふるさと大垣科」（研究の視点1とも関わる）

2. 地場産業や伝統・文化に興味関心をもち、継承しようとする気持ちを育てる指導と手立て（研究の視点2-②）

- ・私の学校、学年、学級の一取組

3. 地域人材の活用（研究の視点2-③）

☆「学校の限られた授業時数の中で、伝統文化について児童生徒に深く学ばせることの難しさが課題」に対して、「やはり難しい。だからこういう手があるのではないか。」という結論でもよい。

人口の社会減に悩む岐阜県に将来住み続けるまたはターンをする児童生徒を増やすために、岐学組でプロジェクトチーム（PT）という形をつくる。

①県の共通したコンセプトのもとで展開される各地域の特色あるふるさと教育の実践例の収集と整理（今回の教研で提案発表したい部分）

②PTであるので、2回目以降の発表を前提とする。岐阜教研の3つ目の発表提案でもよいし、徳島でもらった課題に対して数年後の教研で改善した部分を発表できる。ただし、このテーマについて数年はみんなで少しずつでよいのでこつこつ実践例を貯めなくてはならない。私もいずれ現場に戻りますし、その時私が提案発表者となれば、この分科会で枠を一つ確保できることになる。

③岐学組自体の研究能力の向上を図れるとよい。

具体的な進め方

1. 大枠は高橋が作成する。発表者が数名必要（当然謝礼は出します）。
2. 各校および各先生方の自分の実践をA4版1枚に簡潔に記すか、構想図や指導計画や子供の作品を提出してほしい。学習の様子が分かる映像もほしい。地域行事への単発の参加記録でもOK。
3. 30年度少しやってみたことでも、29年度以前にやったことでも構わない。写真も29年度以前のもので可。
4. 映像の提供やこうした提案をすることは管理職に理解を求める通知や連絡をする。

